

令和5年6月13日

伊豆下田法人会 会員事業所の皆様へ

(一社) 伊豆下田法人会  
会 長 遠藤一郎

「こども『仕事共育』協力事業所」登録のお願い

いつもお世話になっております。

さて、伊豆下田法人会では、令和5年度の事業の柱として「繋ぐ」を合言葉とし、移住者の方々や地元学生の皆様と地元企業との交流機会を作る事で、地域の活性化を図る地域社会貢献事業を展開して参る所存であります。

特に地元の子供たちについては、昔のように野山を駆け巡ったり、日常で親以外の大人たちとも接する機会が減少したりと、郷土の事をあまり知らぬままに地元高校を卒業し、地元を離れるケースが多いように感じるようです。先日、下田高校の依頼を受け、下田高校1年生180人と社会人90人が対話するトークフォークダンスという企画に協力をさせて頂きましたが、反応を見る限り、高校生側も社会人側も互いに意義のある交流の機会であると感じて頂いたようで、こうした対話の大切さを実感致しました。

教育現場でもそうした機会を増やしていきたいと感じられていて、法人会としても学校協議会に参加、協力させて頂く事となりました。

そこでまずご相談を受けたのが、10月26日(木)～27日(金)に予定されている下田中学校の職場体験学習を受け入れてくれる事業所の事でした。中学生の職場体験をお願いできる事業所を探してほしい…との要望です。こうした職場体験を受け入れてくれる事業所の選定、依頼などは先生方の負担もかなり大きいとのことです。

そこで法人会として一つの提案をさせて頂きました。

今後、少子化、人口減少が進む当地域では、子供たちに仕事や働くことの意義、郷土愛を育む行いを、地域をあげて行う必要があることから、永続的に協力頂ける事業所を募集、リスト化して学校側が話しやすい環境を作ることです。

ご登録いただいた事業所様には、目に見えるところに貼って頂ける「こども『仕事共育』協力事業所」(別紙参照)のステッカーを配布させて頂きます。

つきましては、主旨をご理解頂き、是非共、協力事業所にご登録を賜りますようお願い申し上げます。

ステッカーにある「仕事教育」の「教育」の部分をあえて「共育」とさせて頂いたのは、仕事の本質について、一方的に教える…という形ではなく、子供たちの目線に合わせて共に考えていく姿勢が必要であるとの思いからです。

## 「こども『仕事共育』協力事業所」登録申込書

当事業所は、「こども『仕事共育』協力事業所」の主旨に賛同し登録を申し込みます。

事業所名 \_\_\_\_\_

住 所 〒 \_\_\_\_\_

代表（又は窓口担当者） \_\_\_\_\_

連絡先（電話番号） \_\_\_\_\_

（メールアドレス） \_\_\_\_\_

業種、仕事内容 \_\_\_\_\_ 受入人員 \_\_\_\_\_ 名まで

特記事項（ある場合） \_\_\_\_\_

（返信先）（一社）伊豆下田法人会事務局 FAX 0558-22-3924

※登録頂いた事業所様については、協力事業者リストに掲載し、学校関係者へと情報共有させていただきます。登録事業者様には、職場体験等、学校側から依頼等があると思いますので、ご了承願います。

こちらからは、次のステッカーを郵送させていただきます。

当事業所は、  
子供たちと共に仕事や働く事の意義を考え、  
郷土愛を育むことに繋がる事業に協力します。

※イラスト

# こども「仕事共育」協力事業所

## （一社）伊豆下田法人会

※原寸大 下地は黄色でフルカラーです。